

令和5年度 桜和祭



SHOWA GAKUIN
SINCE 1940

SHOWA GAKUIN

昭和学院中学校・高等学校

昭和学院 広報 第44号 2023.12.23[土]発行

〒272-0823 千葉県市川市東菅野2-17-1

TEL 047-323-4171~5 FAX 047-326-5310

<https://www.showa-gkn.ed.jp/js/>

9月16日(土)17日(日)に開催された桜和祭は、新型コロナウイルス感染症が5類に分類されてから初めての文化祭となった。そこで、「今まで見てもらうことが難しかった生徒の活躍を前面に押し出せるような文化祭」をテーマに、教員と生徒会、桜和祭実行委員だけでなく、高等学校委員と中学校委員も巻き込み、生徒主体となる桜和祭を推し進めた。制限が少なくなった今年度の企画は、多種多様な内容で、企画から楽しさが伝わるようなものばかりであった。プレゼンテーションすることで企画の内容を精選し、よりクオリティの高い企画に昇華させていた。お化け屋敷、カフェ、作品展示などの定番の企画から、遊園地の遊具を模倣し手づくりしたコーヒーカップや、銚子電鉄とコラボレーションなど、今までにない工夫を凝らした企画を行った団体があった。

また桜和祭のシステムに関しても従来の形式を戻しつつ、より桜和祭を楽しめるような新しい試みも行った。入場の電子化、フードコートの設置、生徒会と中央委員の共同企画など、どれも好評で来年度以降の桜和祭につなげていけるようなアイデアを実施できたと思う。これは、生徒を中心とした学校全体の協力なしには実現できないものであった。特に生徒会・桜和祭実行委員は、生徒の活躍が全面に表れるような桜和祭の方法を考え、1学期の放課後そして



▲歓迎門

夏休み等、多くの貴重な時間を遣い、桜和祭を成功させた。

来年度も今年度の桜和祭の反省を生かし、より昭和学院らしい生徒が主体となる文化祭が開催できるよう努めていきたい。



▲展示会場の様子

生徒会の方や一般の方々が楽しむことができるものとなりました。特に生徒会では、インターネットを活用し、各団体の広告や宣伝を行うことで、他校の生徒や昭和学院に入学を希望する方の注目を集めることができました。また、デジタルだけでなくアナログ化として紙媒体での案内図を作成し、全ての年齢の方が参加しやすくなるよう工夫しました。

生徒会で半年以上の時間をかけて準備した桜和祭は、生徒会役員である私たちの今後にとっても、誇るべき印象に残る文化祭となりました。今回の結果を踏まえ、来年も生徒会を中心として、楽しく安全であり心に残る桜和祭を実現するために、積極的に活動していきます、と語っている。



▲賑わうフードコートの様子

生徒会会長飯田大愷さんは、今年度の桜和祭はまさに「新昭和」を実現させたものとなりました。

コロナ禍では行うことが叶わなかった飲食をすることや来校者を呼ぶことが可能になったことで、生徒だけでなく保護

者の方や一般の方々が楽しむことができるものとなりました。特に生徒会では、インターネットを活用し、各団体の広告や宣伝を行うことで、他校の生徒や昭和学院に入学を希望する方の注目を集めることができました。また、デジタルだけでなくアナログ化として紙媒体での案内図を作成し、全ての年齢の方が参加しやすくなるよう工夫しました。

生徒会で半年以上の時間をかけて準備した桜和祭は、生徒会役員である私たちの今後にとっても、誇るべき印象に残る文化祭となりました。今回の結果を踏まえ、来年も生徒会を中心として、楽しく安全であり心に残る桜和祭を実現するために、積極的に活動していきます、と語っている。

高2 修学旅行



▲広島平和記念公園

高2 TA・AA・GA コースは、11月上旬に三泊四日の日程で修学旅行を行った。中1冬からコロナ禍となり、その後の中学の全ての行事・部活動等が制限されていた学年である。高2 評議会のメンバーで組織された実行委員会による準備を進め、出発当日を迎えた。広島の平和記念公園では、ピースボランティアの方々の話に耳を傾け、資料館では長い時間をかけて見学していた。安芸の宮島では、厳島神社の鳥居を背景に写真を撮影し、もみじ饅頭を味わった。神戸・大阪でのクラス研修・グループ研修、3日目には終日USJを満喫した。最終日の京都では、希望コース別グループ研修となり、金閣寺・嵐山・清水寺の各コースから京都駅に集合した。今回の修学旅行の経験が、今後の高校生活の良き糧となることを期待している。

高2 IAコースは、11月4日(土)～13日(月)にボストン語学研修を行った。到着翌日はフリーダムトレイルを行い、街並みを満喫しながら歴史について学んだ。3日目以降午前中は語学学校で他国からの留学生と共に授業に参加した。午後はハーバードやMITを訪問した。講義を受けるだけでなくプレゼンテーションも実施した。全米最大規模のボストン美術館では膨大な数の美術品に触れることができた。最終日は終日自由行動。美味しい食事や買い物、観光などを満喫したようであった。短期間ではあったが、異文化を学んだだけでなく日本文化についても再考する良い機会になった。今回の研修で受けた刺激を忘れないことを願っている。

高2 IAコースは、11月4日(土)～13日(月)にボストン語学研修を行った。到着翌日はフリーダムトレイルを行い、街並みを満喫しながら歴史について学んだ。3日目以降午前中は語学学校で他国からの留学生と共に授業に参加した。午後はハーバードやMITを訪問した。講義を受けるだけでなくプレゼンテーションも実施した。全米最大規模のボストン美術館では膨大な数の美術品に触れることができた。最終日は終日自由行動。美味しい食事や買い物、観光などを満喫したようであった。短期間ではあったが、異文化を学んだだけでなく日本文化についても再考する良い機会になった。今回の研修で受けた刺激を忘れないことを願っている。



▲語学学校にて



▲ボストン市街にて

LONDON 7.21^{MON}-8.7^{MON} 海外語学研修 7.30^{MON}-8.6^{MON} CANADA

7月21日(金)、生徒32人は成田空港からドバイ経由ロンドン・ヒースロー空港へ向かった。目的地はロンドンから南東にバスで約2時間、歴史的建造物が多く残るイプスウィッチの町の小高い丘を登った場所にあるSt. Joseph Collegeだ。そこを拠点に15日間の英語研修が実施された。カレッジにはスペインとナイジェリアからの学生も参加しており、日本では体験できない環境で早朝から夜9時近くまで語学研修を含む様々なキャンプ・アクティビティに挑んだ。スペインの学生は中学生が中心、ナイジェリアの学生は大半が小学生と同年代の学生が不在の中、生徒たちは他国の学生や現地インストラクターたちとコミュニケーションをとりながら、少しずつ未知の環境の生活に慣れ親しんでいた。英語が苦手な生徒もダンスやスポーツを通じてジェスチャーで言葉の壁を乗り越えていた。また、生徒たちの優しさが他国学生に伝播して、あっという間に仲良くなっていったことも特筆しておきたい。同じ環境で



▲ビッグベン前にて

過ごしたことで帰国日には他国の学生との涙の別れも交わっていた。異文化交流を体得した生徒たちは、短期間で成長し、この研修を通じて培ったものを個々にかみしめているように映った。今回の経験を今後に活かし、更に力強く成長していくことと思う。



▲バッキンガム宮殿にて

7月30日(日)から9日間、バンクーバーから東へ1時間の位置にあるラングレーで、カナダ語学研修が行われた。この研修の特徴は、カナダの家庭に宿泊し、その家族と生活を共にして英語のコミュニケーション力を向上させることである。平日の朝は特別な英語授業があり、午後にはその授業で学んだ内容を活用するために地域の観光地を訪問した。



▲ホストファミリーとのウェルカムパーティー

授業には「カンパセーション・パディ制度」という独自のシステムが取り入れられている。これは、トレーニングを受けた現地のカナダ人ティーンエイジャーが英語の授業を補助し、生徒と英会話の実践の機会を増やすものだ。生徒はこの制度により、より身近に英語を体験することができ、質問する際のハードルが下がっていた。

課外活動では、バンクーバーのギヤスタウンやスタンレーパークなどの観光地を巡るだけでなく、地域の老人ホームを訪れて日本の文化を紹介する活動も行われた。生徒たちは老人ホーム利用者の名前を漢字で色紙に書いたり、福笑いや箸の使い方を英語で教えたり、



研修プログラム修了式

実践的な英語を使用する場面が多く、参加生徒の感想からも、この研修への高い満足度が伺えた。この研修に参加する機会を得る生徒にとっては、非常に価値のある経験となるだろう。

サマーイングリッシュプログラム



▲オープニングセレモニーの様子

高校1・2年生IAコース及び他コースの希望者を対象に8月21日(月)～25日(金)の計5日間、サマーイングリッシュプログラムを実施した。英語を学ぶのではなく、英語を使用して学ぶことを目的としたプログラムで、ディベートやディスカッションを中心にレッスンを行った。初日は戸惑う様子を見せた生徒もいたが、時間が経つにつれ徐々に積極的に講師や生徒同士でコミュニケーションをとることができていた。最終日には全

参加者の前で個人プレゼンテーションを実施した。レッスンの中には、講師の出身国をテーマにしたトピックを扱うものもあり、異文化を知る良い機会にもなった。イングリッシュプログラムと銘打っているが、「自国についてもっと知る必要がある」「思考するのが苦手だと気付いた」など生徒は英語以外の課題も発見していた。今回のプログラムで学んだことを忘れずに今後も学習に励んでほしい。



▲授業風景

令和5年度全国高等学校総合体育大会 結果

水泳部

関谷 直樹先生

伊東 開耶 (高2)

100m 自由形 **優勝**
200m 自由形 **第2位**



決勝の入場時、スタート台に立った時、泳いでいる時、どれも久しぶりに味わう気持ち良さだった。そして、ゴールタッチをして電光掲示板を見た瞬間、その気持ちが更に倍となった。

200m自由形で逆転負けしてしまったこともあり、この日はチームの歓声と笑顔がなにより嬉しかった。関東大会前に「黄金期は中3」と他選手に言われ、悔しくても認めざるを得なかった。身体の変化もあり、今までどう泳いできたのか思い出せなくなり、限界が来た時に約1年ぶりに帰省した。やはり家族の存在と地元の空気感自分を落ち着かせてくれ、もうやるしかない！という気持ちに切り替わっていた。「黄金期」は中3だが「全盛期」はまだ訪れていない。だから、それに向けて突き進むしかない。「萎れていた葉が、水を注がれやっとなり出しただけ。これからも幾度となく萎れてしまうかもしれない。でも最後には蕾を付けて花を咲かせよう！」インターハイの結果は真にその第一歩だった。
(文・伊東開耶さん)



女子ハンドボール部

佐藤 奏吉先生

準優勝

ハンドボール競技は、7月26日(水)～31日(月)に北海道函館市函館アリーナを中心に開催されました。新チーム発足時からインターハイ2連覇を目標に取り組んできました。大会直前までアンダーカテゴリーのアジア選手権(U18)もあり、全員で練習できる日数が限られ、不安を抱えての大会入りとなりました。組み合わせもブロック王者ばかりの山で、厳しい連戦が続きましたが試合をするごとに調子を上げ、決勝まで何とか勝ち上がることができました。決勝は前半からビハインドを追う展開になりましたが、昭和学院らしく最後の最後まで泥臭く粘り強いプレーで、終了間際に1点差まで詰め寄せるところまでできましたが相手に逃げ切りを許しタイムアップを迎えました。悔しい結果となりましたが決勝までの過程を振り返ると、選手たちはプライドをもって最善を尽くしてくれました。応援してくださった皆様に感謝申し上げます。



新体操部

塩屋 恵美子先生

団体 第3位

新体操部は8月10日(木)～12日(土)、北海道真駒内セキスイハイムアリーナで行われたインターハイに出場しました。昨年の優勝から連覇に向け、様々な準備を整えながら昭和学院にしかできない演技に磨きをかけてきました。緊張の本番では、曲にのせて1秒1秒に表現を盛り込みながら終盤までノーミスの演技で会場を沸かせ、今年も連覇か！と思った瞬間。最後の一秒で痛恨の落下ミスが起こり、連覇の夢は途切れることになってしまいました。まさか…。しかし大きなミスをしての表彰台は素晴らしい結果です。ただ、この結果に誰も満足できていません。だからこそ、10月末のALL JAPANでは再び立ち上がり、昭和学院にしかできない演技を悔いなく出し切りたいです。



太田 詩月(高3)・竹高 朱莉(高3)
渋谷 美緒(高2)・東 愛梨(高2)
鈴木梨琉愛(高2)・佐波 結来(高1)
黒川 千春(高3)・木村 美花(高2)

体操競技部

中島 恵美子先生

西田 采永 (高2)
個人総合 **第27位**
種目別平均台 **第5位**



自転車競技同好会

大坪 正典先生

宮崎 太志 (高3)
個人スプリント
第5位



男子ハンドボール部

池畑 大先生

2回戦惜敗



女子ソフトテニス部

高橋 章典先生

団体 初戦惜敗



個人 戸部 真悠香 (高2) ペア
田中 悠 (高2)



ベスト64

男子ソフトテニス部

山岡 翔平先生

個人

河村 颯希 (高3)
大竹 公陽 (高3)
ペア

ベスト64



個人

山崎 介統 (高2)
坂入 寿紀 (高2)
ペア

3回戦惜敗



放送部

藤原 俊一先生

第70回NHK杯
全国高校放送コンテスト
朗読部門 **準決勝進出**
入選 佃 愛弓 (高3)



全国中学校体育大会 結果

新体操部

団体 **第7位**

村山 梨花 (中3)・福田 杏南(中3)
鈴木 瑠夏 (中3)・池畑 杏(中2)
渡辺 きらり(中1)・藤江 杏名(中3)
藤田 優笑 (中2)・濱田 鈴(中3)



塩屋 恵美子先生

バスケットボール部

決勝トーナメント
1回戦惜敗
ベスト16



一関 智子先生

ソフトテニス部

女子個人 **ベスト16**

吉田 零 (中2) ペア
猫宮 来琉未(中3)



高原 良江先生

水泳部

女子400mフリーリレー
第41位

中野 心美 (中1)・野口 華穂 (中2)
阿部 真怜 (中1)・後藤 那心寧(中3)



渡辺 基子先生

特別国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体(少年女子・男子)」



ハンドボール(女子)

優勝 監督：佐藤 奏吉先生

千葉県メンバー全員が昭和学院

堀内 雪羽(高3)・アシュール 莉麻(高1)
荒井 七香(高2)・杉山 日菜(高2)
吉田 心(高3)・星野 友利(高3)
加藤 真央(高2)・中村 真心(高2)
齋藤 史歩(高2)・倉持 愛泉(高2)
永井 桜莉(高1)・関口 華恋(高2)
マネージャー 町澤 凜花(高2)



新体操

総合 第4位

監督：塩屋 恵美子先生

千葉県メンバー全員が昭和学院

太田 詩月(高3)
竹高 朱莉(高3)
渋谷 美緒(高2)
東 愛梨(高2)
佐波 結来(高1)
鈴木 梨琉愛(高2)
魚津 凜花(高1)



水泳(競泳)

伊東 開耶(高2) 100m自由形**第4位**(少年A)、50m自由形**第5位**(少年A)
大住 煌華(高1) 100mバタフライ**第7位**(少年B)、400mメドレーリレー**第7位**(少年B)
加藤 真希(高1) 400mフリーリレー**第7位**(少年B)、100m自由形**第12位**(少年B)
大関 侖(高1) 100m背泳ぎ**第6位**(少年B)
森田 碧大(高1) 200m個人メドレー**第7位**(少年B)、100mバタフライ**第8位**(少年B)
大関 侖(高1)・森田 碧大(高1)
400mメドレーリレー**第5位**(少年B)
小林 拓海(高1)・森田 碧大(高1)
400mフリーリレー**第8位**(少年B)



体操競技

団体 **第6位**
西田 采永 (高2)



自転車競技(男子個人)

競輪 **第4位**
宮崎 太志 (高3)



カヌースラローム

カヤックシングル
成年女子個人
25ゲート **6位入賞**
15ゲート **6位入賞**
吉川 颯姫 (高1)



カナディアンシングル
成年男子個人
25ゲート **優勝**
15ゲート **優勝**
山本 圭悟 (高2)



バスケットボール(女子)

準優勝

千葉県メンバーに4名選出
山下 笑伶奈(高2)
中尾 果楓(高1)
藤松 柚乃(高1)
石井 杏奈(高1)



ハンドボール(男子)

2回戦惜敗

監督：池畑 大先生
千葉県メンバーに9名選出



大熊 悠友(高3)・大木 星蓮(高3)
石丸 瑛大(高3)・西谷 秀義(高3)
木村 恵士(高3)・下平 航太(高2)
北川 大智(高2)・小沼 徹平(高2)
マネージャー 岩佐 海来(高2)

芸術鑑賞会



▲TBS赤坂ACTシアター入口

本年度は、高校11月7日(火)、中学11月15日(水)に舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」を鑑賞した。公演地の赤坂に初めて行くという生徒も多く、集合時間に間に合うか心配されたが、地下鉄の駅からハリー・ポッター一色となった会場周辺に早くから集まり、開演前からその世界観を楽しんでいる姿が多く見られた。演出も海外から輸入されたということもあり、今までの鑑賞会とは違ったスケールの大きさに驚いた生徒もいたようだ。来年度は、劇団四季の作品を鑑賞予定である。芸術鑑賞会を通し、多くの芸術作品に興味を持ってくれることを願っている。



▲公演を楽しみに待つ中学生

スピーチコンテスト

市川市中学校英語発表大会

9月19日(火) 於：全日警ホール

- 中1 優勝 阿満 あかり ペア
奥 りおん
- 中2 第5位 三浦 律花
- 中3 優勝 渡邊 莉弥

— 暗唱の部 —



令和5年度千葉県高等学校生徒英語研究発表大会 市川地区大会



9月28日(木)
於：浦安市日の出公民館
*優勝者は県大会へ出場

- 高1リーディング部門 優勝 遠藤 暖久
- 高1レシテーション部門 優勝 樋渡 百音
- 高校2、3年レシテーション部門 全学年スピーチ部門 第3位 大杉 舞 (高2)

第74回千葉県高等学校生徒英語研究発表大会

10月24日(火) 於：千葉県総合教育センター

- 1年 1年 2・3年
- リーディング部門 優勝 遠藤 暖久
- レシテーション部門 優勝 樋渡 百音
- レシテーション部門 優勝 滝澤 彩伽(高2)

第23回東日本学校吹奏楽大会 金賞



令和5年度東日本吹奏楽大会で2年連続金賞を受賞致しました。昨年度のメンバーから半数以上入れ替わったため、今年もチャレンジャーの気持ちで臨みました。その結果、東日本大会だけではなく管楽合奏コンテスト全国大会は、最優秀賞・審査員特別賞受賞という結果を残すことが出来ました。また、全日本高等学校吹奏楽大会では初出場で来年度のシード権を獲得することもできました。この結果に驕ることなく進化していきたいと思えます。

中学校 合唱コンクール



▲笑顔溢れる3年5組

4年振りに中学校合唱コンクールが11月8日(水)に伊藤記念ホールで行われた。本校の合唱コンクールは、「桜和祭」「スポーツ大会」と並ぶ三大大行事の1つである。生徒の中には小学校時代に合唱を行った経験が少なく、合唱コンクールを開催することを知ったときに不安そうな表情をした生徒もいた。しかし、練習が始まると学級の団結のために一生懸命練習する姿が見られ、久しぶりにその光景を目にすることができた。どのクラスも気持ちを込めた発表を行い、結果発表の際には非常に大きな盛り上がりを見せていた。

- 最優秀賞 3年5組 手紙～拝啓十五のきみへ～
ブラボー賞 3年2組 手紙～拝啓十五のきみへ～

キャリアアップ講座

中学校

10月26日(木)に日鉄ソリューションズ様をお招きし、システムエンジニアの仕事体験が開催された。「SEに向いているのは、地味で地道な事をコツコツできる人。新しいことを学ぶことが苦ではない人」と担当の方からアドバイスをいただいた。《お仕事体験ワークショップ》では、パン屋さんで食パンとメロンパンを作る適切な数をアドバイスするプログラム作りで17名の生徒が熱中した。1つの困り事から問題の本質を抽出し、思考錯誤し改善する大切さを学んだ、実りある時間となった。



▲中学校の様子

高等学校

11月24日(金)の放課後の時間を利用し、東京工科大学「テクノロジーと歩む未来～臨床工学技師という選択」、麗澤大学「企業間のパワー格差はなぜ生まれる」の2テーマで大学の先生をお招きし模擬授業を実施した。



▲高等学校の様子

参加した生徒たちは、医療とテクノロジーの関係性や臨床工学技士の仕事内容、経営学や実際の社会の企業関係など様々なことを学び、それぞれの進路に対する興味や関心意欲を高められた。

第10回女子ユースアジア選手権

ハンドボール女子 U18日本代表 **初優勝**
7/15(土)～24(月)於：インド



高2の杉山日菜さん、中村真心さん、加藤真央さん、齋藤史歩さんが代表選手として出場した。決勝トーナメント決勝では、韓国に勝利し初優勝に貢献した。中村さんは大会ベスト7(日本から2名選出)に選ばれた。

第40回世界新体操選手権大会

団体種目別(3リボン・2ボール)

第6位

8/23(水)～27(日)於：イタリア・バレンシア
フェアリージャパンPOLAのメンバーである高1の西本愛実さんが、団体日本代表チームの選手として出場し、素晴らしい演技を披露した。



奨学会だより

文化講演会

「いのちと向き合い『多様性』を受け入れる」



▲金子道子氏

令和5年度文化講演会を10月21日に開催しました。準備を始めるにあたり、まずは「生徒まんなか」か「保護者まんなか」か、という開催理念の確認です。部会で意見交換し、「コロナ禍で苦しい思いをしてきた生徒たちを『まんなか』に」という思いはすぐに一致しました。では、どんなゲストをお招きするか、です。

部員から情報が寄せられ、一人目は金子道子さんに決定。著名人ではありませんが、長く看護学の指導者として活躍してきた80代の女性です。もう一人は、金子さんと正反対の属性（若い世代の男性）で、テレビ出演も多い大空幸星さんに白羽の矢を立てました。NPO「あなたのいばしょ」の理事長として、「望まない孤独」に苦しむ同世代に寄り添う20代。自身も悩みながら学生時代を過ごしてきました。



▲大空幸星氏

問題は会場でした。1700人の中高生をどう収容するか、保護者は。学校側と協議を重ね、高校生はメインアリーナ、中学生は教室視聴、そして保護者は伊藤記念ホール、ということにしました。

当日の進行はプロ司会者・伊藤結美さん。文化教養部員のほか、学習施設部、厚生補導部の支援を得ました。金子さんは半生を



▲桜和祭で来校された田原総一郎氏

振り返り、出会いは尊く、学生時代に勉強して損はない、保護者の愛情を信じて学問に打ち込んでほしいと、生徒たちに訴えました。大空さんは、多様であることは当然で、それらに心を配るとともに、自分が周りとの関係性に悩んだら遠慮なく相談してほしいと呼びかけました。

事後アンケートには約300人の生徒から回答があり、「とてもよかった」「よかった」に「まあまあだった」を加えると、9割近くに達しました。保護者からは「年齢もアプローチも異なる2人のお話、興味深く拝聴しました」という声があった一方、ホールの音声が聞きづらかったなどの指摘も少なくありませんでした。来年度に向けて、様々な教訓をいただきました。

なお、今年は初めて桜和祭との連携に挑戦しました。ジャーナリストの田原総一郎さんに来校していただき、簡単な講演会も開催。桜和祭に参加していた保護者や生徒たちと交流してもらいました。



▲文化講演会の様子

私学振興大会



▲参加された理事の皆さま・教職員

千葉県内の私立中学校・高等学校の生徒保護者や教職員が参加するこのイベントは、私学では学校運営のため保護者が負担する授業料のほかに県からも補助金を得ていて、この1年間の私学を取り巻く環境や活動内容を報告したうえで補助金の継続・拡充を県に要望するという主旨で毎年10月に開催されています。まず情勢報告では、千葉県の私立高校に対する補助金は47都道府県のなかで6位であるなど軒並み上位にあること、就学支援金や授業料減免の制度が拡充するなか公私間の保護者負担格差が一層広がっていることなどの説明がありました。

次に部活動の全国大会で優秀な成績を取めた千葉県の私立高校に通う選手の表彰が行われました。本校からは2年生水泳部の伊東開耶さんが表彰選手の先頭で入場しました。伊東さんは7月のインターハイ水泳100m自由形で優勝を飾っていて、表彰選手を代表してのスピーチは堂々とした姿で、スランプに落ちていた時の状況が語られ、それを乗り越え「やっぱり私は泳ぐことが大好きなのです。」と締めくくったメッセージに感動しました。

最後に、財政支援を拡充強化すること、保護者の経済的負担軽減となる支援制度を拡充すること等の大会決議が採択され、無事終了しました。



▲代表挨拶をする伊東開耶さん

10月7日に第20回千葉県私学振興大会～私学教育を考える集い～が幕張メッセ国際会議場で開催され、本校奨学会から22名の理事と8名の教職員が出席しました。

桜和祭への協力



▲ワークショップ会場

本年度は数年ぶりに外部の来場者をお招きしての桜和祭開催となり、総務部では多くの方にお楽しみ頂けるようワークショップを開催致しました。今年は、昨年在校生に好評だった『ミサンガ作り』と、もう一つは小さなお子様にも喜んで頂ける『くるくるシャボン玉作り』の二つをご用意致しました。どちらも大盛況で、お子様だけでなく在校生や多くの方にご来場頂き、たくさんの素敵な笑顔に出会う事が出来ました。

また、母姉部では久しぶりにバザーを開催し、保護者の皆さまにご提供頂いた品物を販売致しました。こちらも多くの方に足を運んで頂き、会場は大変活気溢れるものとなりました。



▲バザー会場の様子

学校周辺の美化作業



▲12月2日の清掃作業の様子

11月11日(土)と12月2日(土)の2日間、中高奨学会の皆様のご協力で駅からの通学路と学校周辺の美化清掃を行いました。延べ102名もの方々に参加していただき500袋超の落ち葉などを集めました。この清掃作業は2020年から行われているもので、本年3月には市川市から清掃行政協力者として表彰を受けています。

また12月2日の作業が終わった後、希望者を募り校内施設見学会を行いました。特に今回は国登録有形文化財にも指定されている本学院の創立記念館をじっくりと見学し、実に有意義な時間を過ごしました。



▲創立記念館にて